

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対! 1047名解雇撤回!

55号 2014年12月17日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局 千葉市中央区要町2-8 DCC会館内 043-222-7207 nationwidemovement@yahoo.co.jp

解雇撤回・JR復帰を求める最高裁署名 8万2966筆(14年12月17日現在)

10万署名を集めきり 最高裁で解雇撤回を

2・15 国鉄集会から15春闘へ

11月労働者集会の原点を再確認 新たなスタートラインに立った

田中康宏(動労千葉委員長)

国鉄闘争の原点に戻る

今年で11月労働者集会は17回になります。集団的自衛権の問題をはじめ、ここまで情勢が動いていることが僕らが目指すものとの関係で見たと、今年は新しい一回目だと思えました。ここから始まるという意味で言えば、僕はすばらしいものをつくったと思います。特に3労組の発言です。関西



生コン支部も港合同もこの集会は1998年、国鉄闘争に対する5・28判決から始まった。日本の労働者の権利が打ち砕かれる。自分たちはここで闘う労働運動を絶対につくらなきゃいけないと固く決意した」というところから発言を始めています。この時代との関係でも一回原点に戻った。いま求められ

ているのはこの現状の中での労働組合ということ。今度の集会の核心はここだった。そう考えると、各地域・職場の努力で全国34力所の国鉄集会を開催し、国鉄分割・民営化以降に起きたことに食らいつき闘ってきたことが大きな説得力を持つ運動になっている。そういう意味で今年を新しいスタートラインにしたい。総括の2点目は、これまでと

方組織する闘いとしてやり抜きたい。これは単なる正規・非正規の連帯論ではないんです。違つのは、非正規化された結果に反対して15年、闘っているだけではない。労働者が正規から非正規に突き落とされていく過程そのものに対して闘いを挑み続けた。これは初めてなんです。やりくりしたい。最後に、福島とか原発、改憲・戦争との関係で来年3・11への新しいスタートです。来年の3・11に向けて何が起きようとしてくるのか。福島第一原発のすぐ脇まで帰還しろということになる。動労水戸の闘いが生きてくるのはこれからです。郡山の闘争も単なる外注化反対闘争ではなくてこの一環です。11月集会のこの時代に対する意味は大きかった。

最高裁に7263筆提出 10万筆を集め勝利判決を

12月2日、6回目の最高裁署名提出を行った。動労千葉争議団の高石正博さん、中村仁さんを先頭に動労千葉組合員や弁護士、支援が結集した。葉山弁護士は「現在の外注化・非正規職化の根源が国鉄分割・民営化。これを根底から粉砕する一環として裁判闘争がある。署名提出行動の意義は大きい。最高裁は解雇撤回・JR復帰判決を出すべき」と訴えた。

これは決定的です。僕らだって無縁じゃなかった。動労千葉で職場で闘ってきたと本当にそう思う。ちょっとした気を抜いて敵の攻撃を見据えきれなかったらわれわれも同じ運命。11月集会は爆発的に増えてないけど、われわれだけがこういうことができた。

特に持ち上げているのはUAゼンセンです。日本で一番非正規を組織し、日本で一番多くの女性を組織している労働組合です。これを持ち上げて「UAゼンセンよ、連合を分裂させよ」と言っている。

田中委員長は、「全国の仲間が血のにじむ努力で集めてくれた署名だ。28年かかったが真実はすべて明らかになった。判決は解雇撤回・JR復帰以外ありえない」「安倍政権がもたらしたのは貧困と戦争だけ。出発が分割・民営化だ。それが裁判で問われている」と訴えた。

争議団から中村さんが、「国鉄とJRは一つ。国鉄の不当労働行為を認めたらJR復帰は当たり前。絶対に勝利判決をかちとりたい」と訴えた。

Uゼンセンの何がすばらしいのか。憲法改悪を全面的に推進する、原発を推進する――これが労働組合の崇高な任務だと言っている。「連合は中途半端だ、完全な産業報国会になる以外に労働運動の進む道はない」

(裏面に続く)

国労組合員資格訴訟

控訴審の闘いで反撃を

国労組合員資格確認訴訟の控訴審第1回口頭弁論が12月2日、東京高裁第21民事部(齋藤隆裁判長)で開かれました。

「JRおよびJR関連企業に在籍する者」に組合員資格を限定する国労規約の改悪まで行ったのです。

しかし、改悪される以前の規約には、その「解釈確認」として「国鉄労働組合が不当処分と認定した被解雇者……は本人の希望により組合員としての資格を継続することができる」と明記されています。原告本人の意思を問うことなく国労本部が強行した組合員資格のほう奪は、明白な規約違反です。控訴理由書の陳述において原告代理人は「規約厳格解釈の立場から審理をやり直すべきだ」と裁判長に迫りました。

本人の意思を問うことなく、大会決議で組合員資格をなく奪するなど、労組法も憲法も踏みにじる判決です。これはすべて労働者の未来にかかった闘いです。「4・9政治和解」で「解雇撤回は二度と闘わない」とJRに誓った国労本部を打ち倒し、動労総連合を全国につくり出していく闘いとひとつになつて闘います。(事務局)

鈴木達夫弁護士が衆院選闘う

国鉄闘争全国運動の呼びかけ人である鈴木達夫弁護士が12月14日投票の衆議院選挙に東京8区(杉並区)から立候補し、16981票を集めました。



鈴木達夫弁護士は、動労千葉顧問弁護団として国鉄分割・民営化に反対して闘い、東京西部ユニオン鈴木コンクリート工業分会の裁判で解雇撤回・原職復帰をかちとった経験から「労働者の団結で1%の資本家の利益で動く政治を根底から変えよう」とア

（表面からの続き）
とつことなっています。やり玉に挙がっているのが日教組と自治労。全部たたきつぶせよ。

これと896自治体消滅問題は一つです。社会の崩壊の中で労働運動を壊滅する攻撃です。だげど国鉄分割・民営化の時とはまったく違うことに確信を持つた方がいい。何が違うか。日本の労働者はこの30年間、国鉄分割・民営化以来何が起きたかをすべて経験してわかってい

る。もつひとつ違つのは、我慢がならない怒りが爆発寸前まで世の中に積み上がったこと。ここで産業界国会攻撃との勝負が始まる時代が来ている。そついつものとして896自治体消滅・アベノミクス崩壊を見ないといけない。

集団的自衛権は、主要なものでも関連法案が十数本ある。考えてみてください。安倍はこの秋の臨時国会に提出できなかった。秋にできなかったことが来

第1回実行委員会を開催

中四国各地から2・15集会へ

11月23日、岡山市内において2015年2・15中四国国鉄闘争大会の第1回実行委員会が開催された。国鉄闘争全国運動呼びかけ人の愛媛県職労の宇都宮委員長をはじめ、広島・山口・香川・徳島・山陰・地元岡山も含め中四国各県から30人以上が参加し、集会の成功に向けて活発な議論を行った。



長が「動労総連合を全国に」を掲げて2・15集会を組合として呼びかける。責任組合として絶対に成功させたい」とあいさつ。動労西日本・山田書記長の基調は、安倍政権を解散総選挙に追い込んだ2014年のわれわれの闘いの地平について提起、①鈴木たつお氏を押し立てて闘う衆院選決戦、②来年2・15の国鉄集会を岡山の地で開催する――二つの大きな挑戦が力強く提起され、全体で確認した。討議では、「安倍は300議席も持っていないもグラグラ。怒りが渦巻いている。われわれが権力党派に向かって大きな飛躍が求められている」「中四国で2・15集会は初めての挑戦だが各地から実行委員会にこれほど集まった。この力で来年冒頭から反転攻勢の勝負に出よう。2・15集会をその出発点」と、2014年の闘いが切り開いた地平の大きさと、そこでの国鉄闘争の決定的基軸性についてあらためて鮮明にする熱気あふれる発言が相次いだ。

冒頭に動労西日本の大江委員長が「現場には怒りがある。闘う方針を示せば必ず結果する」と呼びかけ、自治労愛媛県職の宇都宮委員長、中村・白坂両副委員長は「2・15集会に職場から大結集するために、『動労総連合を全国に』という方針をどう訴えていくか、みんなで議論したい」と語った。

広島連帯ユニオンの青年は、「動労総連合とともに闘う労働組合の拠点を各地にどれだけつくるかが核心だ」と訴え、JP労組の仲間が「今まで、いつもメンバーがいつものように参加にとどまっていた。2・15には一歩踏み出したい」との決意が語られた。

300人の会場を満杯にするような大結集を実現するために何をすればいいのか、どんな壁を突破すればいいのかを熱く議論する実行委員会となった。ここでつかんだ確信を打ち固め実践に踏み出そう。2・15集会をもって国鉄闘争を軸に労働運動の主流派・責任勢力へと躍り出よう！(投稿/国鉄闘争全国運動・岡山 矢田範夫)

「国鉄闘争全国運動の闘いで、僕たちは日本の労働運動の抱えていた弱さ、限界、それを自分たちのこの団結した力で乗り越えてみせる」(6・8全国集会での動労千葉・田中委員長の発言) 争議団・闘争団の仁王立ちと8万筆の解雇撤回署名。敵にすれば、これぞ「岩盤の中の岩盤」だ。しかし岩盤破壊どころか、毎日、署名数が増えて「分断の壁」が崩れていく。安倍政権は打倒され、衆院選の激闘で、さらにその威力を実感しました。徳島の私たちの小さな力でどうするか？ 2月の国鉄交流集会が転換点でした。王道はない。微力なところほど原則的にやろう。「①職場で②地域で③街頭で」の方針をひたすら原則的にやろう。青年が自分と争議団の生き様を重ね合わせ、取り組みスタート。

まずは、3月に物販オルグをかねて県内一巡。解雇で「人間否定」された青年の顔つきが次第に血の気を取り戻し精神になりました。街頭署名の予定も会で決め、街宣スタート。最も困難だったのは職場です。会員が何度も挫折しながら、管理職のいない時に、あるいは、公然と挑戦。「エイ、ヤア！」と心の壁を破る。その連鎖が職場にも労働者を根付かせ34力所の国鉄集会になりました。

2・15国鉄集会を全国で

最後に、これからの課題について。一点目は、この一年間が切り開いた地平ゆえに突きつけられている課題、これを徹底的に鮮明にさせようということです。これまでとは画然と違う組織的

な実践に一人ひとりが立ち上がれるかどうか。これがすべてだと思います。そして、来年の6月にも全国運動の全国集会を開催したい。この集会は韓国鉄道労組からの発言というレベルを超えて、日本と韓国で民営化に立ち向かう

これは最高裁判決で事態はまったく変わってくる。どんな判決が出されようが受けて立つ決意です。判決後、この情勢だからこそ国鉄闘争の継続が本当に求められていると思えます。来年の2・15集会は本当に決定的になります。

そして、来年の6月にも全国運動の全国集会を開催したい。この集会は韓国鉄道労組からの発言というレベルを超えて、日本と韓国で民営化に立ち向かう

「国鉄闘争全国運動の闘いで、僕たちは日本の労働運動の抱えていた弱さ、限界、それを自分たちのこの団結した力で乗り越えてみせる」(6・8全国集会での動労千葉・田中委員長の発言) 争議団・闘争団の仁王立ちと8万筆の解雇撤回署名。敵にすれば、これぞ「岩盤の中の岩盤」だ。しかし岩盤破壊どころか、毎日、署名数が増えて「分断の壁」が崩れていく。安倍政権は打倒され、衆院選の激闘で、さらにその威力を実感しました。徳島の私たちの小さな力でどうするか？ 2月の国鉄交流集会が転換点でした。王道はない。微力なところほど原則的にやろう。「①職場で②地域で③街頭で」の方針をひたすら原則的にやろう。青年が自分と争議団の生き様を重ね合わせ、取り組みスタート。

まずは、3月に物販オルグをかねて県内一巡。解雇で「人間否定」された青年の顔つきが次第に血の気を取り戻し精神になりました。街頭署名の予定も会で決め、街宣スタート。最も困難だったのは職場です。会員が何度も挫折しながら、管理職のいない時に、あるいは、公然と挑戦。「エイ、ヤア！」と心の壁を破る。その連鎖が職場にも労働者を根付かせ34力所の国鉄集会になりました。

「動労総連合を全国に！」をして、みなさんと一緒に乗り出します。(投稿/国鉄闘争全国運動・徳島)

「あらゆる弾圧、攻撃は闘わなければ力を持つが、不屈に闘えば無力化することができると星野さんは言います。まさに星野署名は、国鉄署名を軸として展開することで労働者分断支配の攻撃を根底から崩壊させる大きな歴史的事業になっていく。そんな2015年にワクワクして、みなさんと一緒に乗り出します。(投稿/国鉄闘争全国運動・徳島)